

## サイゼリヤ(7581)



### — 海外の拡大と国内のコストコントロールで5期ぶりの増益 —

サイゼリヤが14日に発表した2015年8月期の決算は営業利益が前期比37%増の75億円となり5期ぶりの増益となりました。売上高が国内外の新規出店や既存店の堅調な伸びを背景に前期比1割増の増収となるなか、円安や原材料価格の上昇による原価率の上昇を販売管理費率の低下でカバーし、営業利益は大幅増益を確保しています。

前期の営業利益75億円は2期前の2013年8月期とほぼ同水準です。しかし、収益構造を比較してみると大きく変化しています。2013年8月期に比べて国内の営業利益が大きく減る一方で、中国をはじめとした海外の営業利益が大きく拡大する格好となっています。国内の営業利益は2013年8月期の70億円から前期に47億円へと減っていますが、海外の営業利益は5億円から28億円へと拡大しています。

このように国内の営業利益が大きく減った理由は原価の上昇です。国内原価は2013年8月期に比べ34億円増えています。しかし、国内の営業利益の減少(23億円)が原価アップ以下に収まったのは販管費率が低下しているためで、販管費率の改善が営業利益を7億円押し上げる結果となっています。つまり経費をコントロールする力はこの数年で確実に向上しており、前期も仮に販管費率の改善がなければ営業利益はほぼ横ばいだったといえます。

海外店舗は上海、広州、北京などを中心に毎年60店舗程度ずつ増加し、2013年8月末の162店舗がこの8月末には290店舗となっています。今期は出店がさらに加速し85店舗の純増で375店舗となる予定です。これに伴い海外の営業利益は34億円まで拡大する見通しとなっています。

中国でサイゼリヤが顧客ターゲットとするミドル層に株式市場の大幅下落で思った以上に損失が出ているのが懸念されるとの会社側のコメントが気にはなりますが、国内の利益を圧迫してきた原価の上昇も一巡となりそうで業績の回復基調は今期も続きそうです。

**ご留意いただきたい事項**

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会